

分析化学系教科担当教員会議 議事録

日 時： 平成 29 年 3 月 25 日(土)12:05～13:00

場 所： 仙台国際センター会議棟「萩」

参加者：58 大学から 85 名(参加者リスト添付)

1. はじめに、世話人の東北大学大学院薬学研究科の大江知行より開会の挨拶があった。教科担当教員会議の位置付け、薬学教育協議会からの補助などが説明された。
2. 引き続き話題提供として、同志社女子大学 薬学部 特任教授 谷本 剛 先生による講演「薬剤師国家試験問題における分析化学領域の出題動向」が、およそ 40 分間行われた。講演では、ここ数年の分析化学の出題傾向を俯瞰し、問題数の制約から複数の内容を含んだ包括的な問題(例、構造解析で NMR と MS の両者を問う)が増えている事などが紹介された。また薬局方が分析化学の中で講義される大学が多い事を踏まえ、日本薬局方の意義、分析化学との関係が紹介された。
3. 講演のあと、来年度に予定されている、以下の関連学会・シンポジウムの案内が、担当者から行われた。
 - 第 56 回薬学会東北支部大会(青森大・大越 絵実加 先生)
 - BMAS2017(東京大・角田 誠 先生)
 - PPF2017(金沢大・小谷 明 先生)
 - 日本薬学会第 138 年会(金沢大・小谷 明 先生)
4. 来年度の分析化学系教科担当教員会議の世話人は、年会開催地の金沢大・小谷明 先生である事が確認された。但し、薬学教育教科担当教員中央会議の平成 29 年度委員は、今年度の会議報告のため東北大・大江が留任する事とした(今後、会議世話人を翌年度の中央会議委員とする)。
5. 会議前に薬学教育に関するアンケートを配布した。内容は、講義時間・使用している教科書・講義量の適否など。更に臨床系教員の増員に伴い専門外の教員が分析化学系教科を担当している可能性を考え、研究者としての専門を調査した(アンケート用紙および回答まとめを添付、回答 59 名、回収率 69%)。

以上

(文責 東北大・大江)